

編集後記 和を以って貴しとなす



アヴェニール労務事務所 所長 柿野元博

<http://www.avenir-sr.jp>

E-Mail avenir4you@gmail.com

表紙の写真の法隆寺は、地震や台風といった自然災害の多いこの日本で、1300年ももっている木造建築です。

建築されたのは、古代日本の飛鳥時代。飛鳥時代の職人たちが、大陸からもたらされた最新の建築技術を、さらに日本の気候風土に合うよう工夫を凝らして組み上げた素晴らしい建築物です。

法隆寺の昭和の大修理の棟梁を務め、最後の宮大工と言われた**故西岡常一さん**の語りの本「木に学べ」(小学館文庫)を拝読しました。そこには、**まず棟梁の役目**として「木のクセを見抜いてうまく組まなくてはなりません、木のクセをうまく組むためには人の心を組まなあきません。職人が50人おったら50人が**わたしと同じ気持ちになってもらわんと建物はできません。**」とありました。

「**法隆寺の鬼**」とまで呼ばれた西岡棟梁が現場で一番気を使っていたことは、技術的なことより前に、みんなの気持ちが揃っているかということだったのです。

世界最古の木造建築・法隆寺は、古代からそういった職人たちによって守られてきたのですね。



法隆寺を建立したのは聖徳太子とされています。

僕らの世代では、その聖徳太子は、いまだに一万円札の肖像画というイメージがあります。σ(^_^;)戦後、お札においても軍国主義の色彩を一掃したかったGHQは、聖徳太子以外の肖像の使用を認めませんでした。聖徳太子についても議論があったようですが、当時の日銀の一萬田(いちまだ)総裁はGHQに対し、「聖徳太子は『**和を以って貴しとなす**』と述べるなど、軍国主義者どころか平和主義者の代表である」と主張してGHQを押し切ったこともあって、聖徳太子は長く日本銀行券の代名詞のようになったと言われています。宮大工・西岡棟梁が大事にしたのも「**和を以って貴しとなす**」という太子の心だったのではないのでしょうか。

さて、大阪労働局によると、近畿地方の昨年度の有効求人倍率が2018年以来4年ぶりに前の年度を上回りました。新型コロナウイルスの影響が収まりつつあるなかで、人手不足感が増えています。

さらに帝国データバンクは**4月の「人手不足倒産」が過去最多を記録**し、なかでも**従業員の転職による倒産が急増**していると今月報じています。

また5月8日の日経新聞によると、3メガバンクが中途採用を大幅に増やし、採用全体に占める比率も約4割になる見込みとのこと。これまで新卒採用中心だった大企業が中途採用に舵をきることで、転職市場が一層活性化し、優秀な人材の中小企業から大企業への流出が進むように思います。

転職は本人の自由。でも、やむにやまれぬ事情があったり夢があって退職したりする場合はともかく、会社の期待と裏腹に気持ちが離れてしまい、やる気がなくなって退職するようなケースは防ぎたいものです。

職場においても、自分たちは何のために仕事をするのか、仕事の目的や、共有できる将来の夢を上司と部下で確認し心を揃えることが、とても大切な時代にきているように感じています。

ところで先日、近所の子どもたちが川を覗いて「**ビーバーがいる！ビーバーが泳いでいる！**」と騒いでいました。実は、僕の住む豊中の千里川には、大きなネズミのような外来種の「ヌートリア」がいます。

「あはは。違うよ。あれは『ヌートバー』だよ。」と僕はお節介にも教えてあげました。

言ったもののなんか名前が違う気がしましたが、どうしても思い出せません。(>_<)

そんな時に「阿吽の呼吸」で、「それは**WBCの野球選手**やろ！」と突っ込んでくれる誰かが傍にいてくれたら、助かったのですがね。(^▽^ ;)

モヤモヤしたままその場を去りましたが、きつと言われた子どもたちはもっとモヤモヤしたことでしょう。

子どもたちが家に帰って、お父さんお母さんに「ヌートバーが川で泳いでた」って話してなければいいのですが。

でもその家族がそれで皆笑顔になったのであればヨシです。「和を以って貴しとなす」ですからね。トホホ。



最近、名前がスツと出ないことが多いのヨ

